



港区立高陵中学校



- 堀田坂の美しい並木道沿いに正門がある。
- コンクリートに木のパネルをアクセントとしたシンプルなデザインの外観。設計は岡田新一設計事務所による。
- 生徒も職員も必ず通るピロティ。職員室からガラスごしに外が見通せるため、セキュリティ上の効果も高い。ベンチは、校舎改築の際に伐採した樹を再利用。
- 各授業ごとに教室を移動する教科教室システムがとられている。クラスごとのホームルームがあり、その隣のホームベース内のロッカーに各自、荷物を入れておく。
- 国語科室。各教室の扉は大型で、ガラス面が大きく実に開放的だ。
- 明るく開放的な階段ホール。勾配も緩やかで昇降しやすい。吹抜け上方の窓はセンサー付きで、暖気がたまる自動的に開閉し空気を澄ませない。



Koryo junior high school

西麻布4丁目、堀田坂の高台に港区立高陵中学校がある。2年の歳月をかけた新校舎の建て替え工事が完了し、この4月に落成式が行われた。従来の学校の建物のイメージとはガラリと異なった、開放的で自然素材の温もりを感じる学び舎取材した。

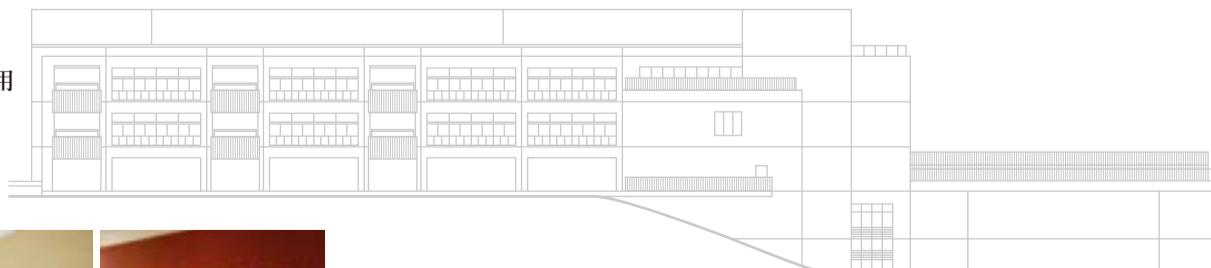
堀田坂のケヤキ並木を望むようにL字型に配置された新校舎は、3階建てに見えるが、実は傾斜地を活かした地階を含む5層構造である。地上の高さを抑えたのは、近隣の住宅地との調和を考えたことだという。

生徒は登校するとまず、ピロティを通過して下駄箱のあるエントランスホールへと進む。ピロティは全面ガラス張り、校長室や職員室から登校する生徒の様子が見える。幅を広くとった階段や廊下を渡り、2階、3階の各自のホームベースへ。教室の扉、壁もすべてガラス張り、実に明るく開放的だ。そして壁、扉には木材をはじめとする自然素材がふんだんに用いられている。窓の外に広がる緑とあいまってナチュラルな雰囲気になり、都会の真ん中の学校とは思えないほどだ。

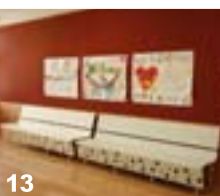
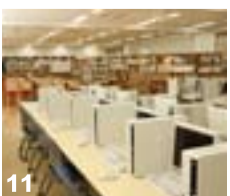
このためか、ガラス張りといっても、外から監視されているような緊張感はない。森のような空間の中で、生徒と教員、生徒同士が、いつも互いの存在を感じ声かけができる。そんなのんびりとしたおらかなさがかもし出しているのが、新しい校舎の最大の魅力であろう。

また、環境への配慮も設計のポイントの一つだ。体育館（アリーナ）の屋上部分は緑化され、太陽光発電パネルを設置。雨水タンクに溜まった水はトイレで活用する。そして内装材の木は、港区とあきる野市の交流事業による「みなと区民の森」で切り出されたヒノキやスギの間伐材だ。間伐材の利用は森林整備を促進し、CO₂の吸収量を増やす。自分たちの学校が、今流に言えば“エコに貢献”していることを、生徒たちは日常生活の中で実感できるわけである。

学校公開週間が年に3回設けられており、一般でも見学できる。また地階の温水プールは地域に開放され、港区在住・在勤者の利用も可能。ドライエリアからの光に包まれてのアクアエクササイズも、気持ちよさそうだ。



- 図書室とコンピュータ室を合わせたメディアセンター。
- 教室名のプレートは生徒が技術の時間に製作したもの。最近では手先の細かい作業が好きな子どもが多いという。
- 階段横のホール。生徒のパブリックスペースの壁は赤で統一。ポスターなどをピンでとめることのできる自然素材を用いている。



- 音楽室。地階にあるが、ドライエリアから光がふんだんに差し込み明るく心地よい。
- アリーナの屋上は、いづれ植物が全面を覆い、遮熱効果が期待できるという。太陽光発電装置で発電したエネルギーは、コンピュータや蛍光灯の電力の一部に用いられる。
- 体育館と講堂を兼用する地下2階のアリーナ。休日にも部活で生徒が汗を流していた。
- 25m×6コースのプール。プールサイドは床暖房を設置、遠赤外線ヒーターを備えた探暖室もあり快適に使える。なお、一般利用については、8ページに詳細がある。

西麻布びと



油井昌由樹さん (62)
油井孝太さん (37)

僕らが暮らすこの西麻布が「いい町だ」と言われ続ける為に

4月西麻布の三角公園で参加資格「西麻布を愛する方ならどなたでも!!」というお花見の会が開催された。毎年お花見の時期をちょっとずらして行われるこの「若葉見の会」には西麻布二丁目界隈のお店を中心に行われている年に一度の西麻布の一大イベント「太陽祭」のメンバーが参加している。会の始めに挨拶をするリーダーの油井孝太さん。日本初と言われているアウトドアショップを西麻布に開き、また黒澤明監督の「影武者」で俳優に、そして夕陽評論家としても有名な油井昌由樹さんの息子さんだ。面倒なルールもなく自由でユルくて楽しむことが目的というこの集まりだが、街への愛情に溢れたなんととも素敵な集団である。今回は中心的存在である油井さん親子に登場いただいた。

西麻布に関わるすべての人を知り合いに

昌由樹 太陽祭 ※1 というのは昔店の前の青山霊園の壁見ながらここで展覧会やってみたいとか考えていたんだ。ある時そんなことを相談するにはちょうどいいおしゃれな店ができて仲良くなっていろいろ話していたら、じゃあお祭りやろうよってことになってそれが太陽祭の始まり。太陽祭というのは「夕陽評論家」※2 と名乗っているのも関係しているかな(笑)。
孝太 太陽祭は初め4店舗の雑談から・・・それが去年で35店舗。人がいいんですよ。それともしかしたらこういう土地の力もあるかもしれない。他の知っているお店の人に僕らが勝手に西麻布のお祭りやるから来て下さいって言うのも失礼だしおかしな話だから一緒にやりませんか?って声を掛けたら皆さん「やるやる」と一気に22軒になっちゃったんです(笑)。そしたら声を掛けた僕が動くことになり(笑) 今まで続いている感じですね。

父の昌由樹さんは大学卒業後、世界一周の旅に出た。旅する中世界のアウトドアグッズに魅せられて帰国後の1972年西麻布にアウトドアショップ「スポーツトレイン」をオープンさせアウトドアブームの火付け役となる。また黒澤明監督の「影武者」のオーディションで1万5千人の中から家康役に選ばれ、監督が亡くなるまで私生活でも親交が続いた。

昌由樹 大学生の頃からファッションショーの演出をやったりしていたの。当時の俺にしてみたら東京がいちばん面白かった。だけどベトナム戦争の収束とともにGIがいなくなってなんか街が大人しくなっちゃった。だったら世界に行けばいいかと思って世界一周に出たんだ。世界中でいろいろ見て良いと思ったものはアウトドアグッズ。持ち帰った荷物にみんなが集まるから、だったら輸入してやるよって、「貿易英語の基礎知識」なんか読んで(笑) レミントンのタイプライターで貿易を始めたんだ。まだアウトドアショップなんてない時代で店をどこにしようかなって考えていた時に西麻布のしょっちゅう来ていた釣り道具屋の店の権利が売りに出て・・・最初は全然売上なくてね。だけど3年目くらいから急に火が付いて毎日お客さんがすごいんだ。だけど「七年目の浮気」って映画もあるけど大概7年もやっていると違うことやりたくなくなっちゃう。ちょうど新聞広告で「影武者」の一般公募を知るんだね。撮影に入って子役が決まらないから俺の履歴書の孝太を肩車していた写真見て黒澤さんが連れてきてくれと。そしたら会って3分で決まっちゃった(笑)。



① 取材は孝太さんのお店 After The Sunset にて
② 太陽祭のロゴマークはみんなの手作り
“One Sun, One Love”



「俺は子どもの意思を尊重する親」と言う昌由樹さん。世界のクロサワに頼まれた昌由樹さんは「行かない」と言う6歳の孝太さんを監督に合わせるために大好きなゴジラやウルトラマンがいることを餌に撮影所行きを承諾させるが・・・。

孝太 だけど行ったらゴジラの着ぐるみの頭だけ立体でべちゃんこになった身体がぶら下がっている。あーあと思ってがっかりですよ(笑)。僕は映画はその一本だけ。父親が何をしている人なのか・・・それは今もよくわからない(笑)。思春期の頃友達と洋服は何がいいと話して買っておくと「おっ、これ俺が初めて輸入したんだ」「・・・オレやっぱやめるわ」逆になんとか疎くなりましたね。学校はどうするとか、商売がどうかあまり現実的な話はしない。この前読んだ宇宙の本がどうだとかそんな話ばかり。たまたま苗字が一緒に仲がいいんですよってよく言っているんですけどね(笑)。

孝太さんが昌由樹さんの営むスポーツトレインの二階でAfter The Sunsetというバーを始めて13年。毎年11月3日に開催される太陽祭は今年で10回目。「楽しむ」ことが目的だが、西麻布に関わるすべての人達が全部知り合いになれるよう、新しい人間関係を作って西麻布という街を盛り上げたいというテーマが回を重ねる度にフォーカスが合うように見えてきたようだ。若葉見の会では大人だけではなく大勢のジュニア達が仲良く遊んでいる様子が微笑ましかった。

孝太 近くのお店から来た人が「誰々があそこにいたよ」とこの辺りを楽しんでくれるのが嬉しいですね。近くに知っている人がたくさんいると、いざという時に何かしてあげられるかもしれない、してもらえるかもしれない。だから西麻布に住んでいる人、働いている人だけではなくこの街をただ通っている人にもこの機会に知り合って欲しい。知り合うことで素敵な街づくりができるんじゃないかと・・・こういう小さいことがやがて世界平和に大きく貢献できる(笑)と思っています。何年もやっているともみんな結婚して家族を連れてくる。子ども同士も仲良くなって輪が広がっていく。続けるって大切ですよ。繋ぐってそういうことだと思う。

昌由樹 太陽祭の最初のメンバーなんて今オーストラリアや石垣島にいたりするんだ。全然知らない土地だけど彼らがいてくれることでぐんと身近な場所になる。俺なんて世界中にそんな友達がいるからもうどこへもいなくてここでいいかなと(笑)。孝太はよくやっているんじゃない(笑)。今は近くに置いて幸せだけどひょっとしたら何か違うものを見つけて彼がどこかに行くかもしれない。その時はそれがいちばんいいことだと思うんだ。それをいつも何か不満に思っているのはせっかく生きているのもったいないじゃない。

雑談の中、日本のアウトドアシーンの先駆者の口からは「西麻布蟻地獄計画」など面白そうな企画が次から次へと出てくる。それを飄々と楽しそうに相槌を打ちながら聞いている孝太さん。お二人に「楽しくなくちゃ」という言葉について回る俗な快樂主義をまったく感じないのは一生懸命で人を愛しているからか。お店で見せていただいた孝太さんプロデュースのみんなに愛されている昌由樹さんの還暦祝いサプライズイベントの映像は最近見たどの映画よりも笑えたり感涙もの。楽しむことの天才のDNAは確実に受け継がれている。こんな親子が根付いている西麻布はやっばりカッコいい。11月3日が楽しみである。

※1 太陽祭・・・西麻布二丁目の年に一度のイベント。参加店がそれぞれ普段やらないスペシャル企画を開催。参加店をスタンプラリーで楽しむ。定期的に完全手書きの「太陽新聞」も発行している。
※2 夕陽評論家・・・「影武者」で俳優デビューした昌由樹さんに分刻みのインタビューが続き、肩書きを求められる。「スポーツ店のおやじ」を一蹴され、肩書きなんて大嫌いという昌由樹さんがしゃべって作った肩書き。だけどもちろん太陽大好き。これにはうらやましい。

(取材・文/伊東みゆき 写真/ARAKAKI)



南麻布さんぽ 前編 「ありすの杜」～旧麻布本村町界隈を行く

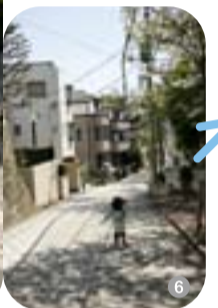
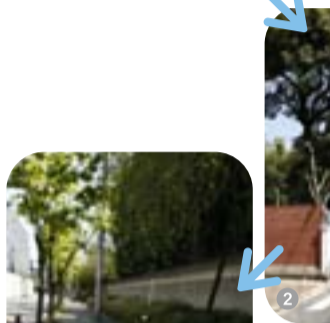
さんぽの待ち合わせは、有栖川宮記念公園の南側に今年3月オープンした高齢者保健福祉施設「ありすの杜 南麻布」①。1階の地域交流スペースはだれでも入ることができ、ウエルカムトイレや売店など利用できるの、さんぽルートに是非組み込みたいスポットです。ここで水分補給など必要な準備を済ませたら、さあ出発！南方向へ敷地沿いに進み② 最初の角を左に曲がります。この筋は外国人向けマンションなどが並ぶ中、塀や門構えなど随所に“和”の

要素が取り入れられており、江戸時代この付近にあった白銀御殿の名残を感じさせます③。（白銀御殿は別名「富士見御殿」とも呼ばれ、町名の由来になったという説もある）また一昨年に新坂近くに建てられたパキスタン大使館④の向かいには、旧麻布プリンスホテルの石垣に囲われたフィンランド大使館⑤があり、2つの大使館の対照的な外観も楽しめます。

その交差点の先、本村小学校へ続く下り坂は奴坂⑥、下った後また上る、坂の多い麻布でも珍しい坂です。小学校隣接の本村幼稚園⑦脇を右折すると、都心では数少ない釣り堀として有名な「衆楽園」に突き当たります⑧。ここでしばし水のある風景に癒され、付近の路地にまぎれこんで童心に戻り⑨、昔ながらの情緒豊かな空間にひたることができます⑩。

ここから薬園坂方面に進むのですが、奴坂の急な上り坂に躊躇するようなら、幼稚園正門前の路地に入るとなだらかな傾斜で且つ冒険気分も高まります⑪。路地突き当りを右に折れて本村保育園から仙台坂方面に進み⑫「天真寺」を過ぎ⑬、最後は麻布グランド脇の緑のアーチで新緑を感じ⑭、また「ありすの杜」に戻ります。

変わりゆく町並みと変わらない一角、今回は様々な麻布の“顔”に触れるさんぽコースとなりました。まだまだ巡りきれない「南麻布さんぽ」は次回後編へと続きます。お楽しみに！



(取材/浅川一枝、高柳由紀子、大澤佳枝、鈴木敏江 文/鈴木敏江)



「子どもたちとたくさん遊んで、一緒に楽しむこと大切にしてください！」
南麻布保育園
保育士 秋葉城太郎さん

子どもに生きていく力を
親子で
読んでみよう

KIDS'! ハローワーク

世の中にはいろいろな仕事があります
保育士

子どもの楽しい記憶を一緒に育む仕事



今回訪れたのは南麻布保育園の秋葉城太郎さん。「保育士」とは、子育てしながら働いている保護者の皆さんを手助けするため、お子さんをお預かりして養育の支援をする仕事です。保育士といえば女性の職業というイメージがありますが、秋葉先生は男性の保育士です。

保育園に通っていたジュニア編集員の大智くんと響ちゃんは、もう随分前に卒業しましたが、今日は取材のジュニア編集スタッフとして訪ねました。

どうやって保育士になったのですか？

中学校の頃から人と関わる仕事に就きたいと思っていました。最初は福祉を希望していましたが、高校に進学して保育園のボランティアを一週間程お手伝いしたとき、楽しくて感動もあって、それで大学は保育士の資格の取れるところを選びました。それでも他の業種にも興味があったのでアルバイトもしましたが、やはり「子どもが好き」ということが一番の理由となり、保育士を選びました。

どんなお仕事をされていますか？

保育士の一日の仕事は、朝登園した時から子どもたちとの生活が始まります。活動は、室内遊び、戸外遊び、散歩などを楽しみ、食事、昼寝など生活全般にわたります。また子どもたちが昼寝をしている間は、次の行事等についての話合いや子どもたちのことで打合せをするなど会議をしたりします。また保護者の方をお迎えにくるまで安全に楽しく子どもたちと過ごすようにしています。毎日がその繰り返しですが、お子さんをお預かりする仕事ですから「いのち」を預かる仕事というわけです。



(上) 紙芝居のお手伝いにジュニア編集委員がチャレンジです。
(下) お兄さんとお姉さんぶりを発揮！子どもたちと仲良く遊ぶジュニア保育士の二人でした。

子ども時代は自立した大人として生きていく基礎を育てる時という意識を持って関わっています。成長、発達の違い子どもに個別的にいていねいに関わることは、とても大切です。

毎日の仕事の中でうれしいことは？

自分自身は幼稚園に通っていて親と離れることが苦手だったので、預けられるときに泣いてしまう子どもたちの気持ちはよくわかります。また保育士や友だちと一緒に遊んで、子どもの頃に楽しい思い出をたくさん残してあげたいという気持ちがあるので、子どもたちには散歩して自然と触れて一日の楽しかったことを持ち帰ってほしいです。

そのような日々を過ごす中で、親御さんから「ありがとうございます」の感謝の言葉がなにより嬉しいのと、一緒に子どもの成長が見られる楽しさや子どもとともに成長でき「保育士」という仕事は、とても魅力的な仕事です。

これから保育士を目指したい人に伝えたいことはありますか？

特に外遊びで自然から学ぶことはたくさんあります。外に出て友だちといろいろな遊びをみつけてほしいです。「よく遊んで、よく寝て、よく食べよう！」これは基本です。また幼少時代、学生時代など友だちとたくさん遊びたくさん笑って楽しんでください。それを子どもたちに伝えて、幼い頃の楽しい記憶を育てあげてほしいです。

安全に子どもたちが遊べるように環境を作ったり見守ったりするには、父親と母親がいるように、もっと男性の保育士さんが増えてくれると女性の保育士さんも助かるのではと思いました。大智くん：僕は保育園だったけど先生ってそんなこと思っていたんだね。知らなかったあ。

(取材/石山恒子、伊藤志織、鈴木敏江、鈴木大智、大村公美子、大村響 文/石山恒子)



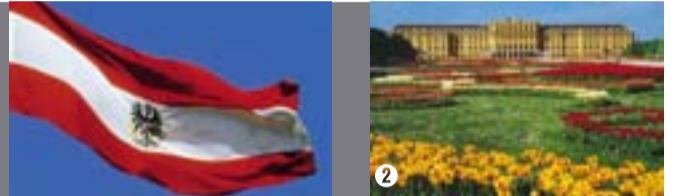
- ① シュテファン寺院を望むウィーンの街並み
 - ② シェーンブルン宮殿と庭園
 - ③ オーストリア人は Gemütlich な国民性。街のカフェでリラックス
 - ④ 女性は白いドレスをまとい、舞踏会 (Ball) で社交界デビューを果たす
 - ⑤ 「ワルツ王」ヨハン・シュトラウス像
 - ⑥ 世界中で愛されるオーストリアのチョコレートケーキ、「ザッハトルテ」
 - ⑦ 仔牛肉を揚げ焼きにしたウィナーシュニッツェル
- ①～⑦ および国旗の写真：オーストリア政府観光局提供



オーストリア共和国
 面積：約8.4万平方キロメートル（北海道とほぼ同じ）
 人口：約830万人
 首都：ウィーン（人口約160万人）
 民族：主としてゲルマン民族
 言語：ドイツ語
 宗教：カトリック約78%、プロテスタント約5%
 政体：連邦共和制（9つの州から構成）
 元首：ハインツ・フィッシャー大統領（2004年7月8日就任 任期6年）
 議会：2院制 国民議会（下院）183議席 連邦議会（上院）62議席
 首相：ヴェルナー・ファイマン
 外務省ウェブページ
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/austria/index.html> より

特命全権大使：シュテファン＝バストル
 取材協力／駐日オーストリア大使館

大使を訪ねて ⑬ 麻布の"世界"から



Austria

音楽と舞踏会の国、Gemütlich な(居心地が良い)オーストリア

今回は「ザ・AZABU」始まって以来の女性の大使へのインタビューである。期待に胸を膨らませながら元麻布のオーストリア大使館に向かった。インタビューの場所は大使館に隣接する大使公邸。シュテファン＝バストル大使は大学で法学を学んだ後、オーストリアの外務省に入省し、以来外交官のキャリアを積んでいらした方である。中国、スロベニア、インドなどで要職を務め、2007年の6月に東京に赴任して今年で3年目になる。

アジアの駐在が多いのはご自身のご希望だという。外交官になられた理由のひとつも、世界の異なる国々に興味を持たれたから。生粋の外交官である。アジアはヨーロッパの国々と違って遠いので、実際に住んでみないとその国のことをきちんと理解できないと考え、駐在を希望したと話してくださった。各国の感想をお聞きした。インドは特に活気に満ちてとてもエキサイティングな国。人口が多いだけに、貧富の差、宗教的な違いなど多様性に富み、それがインドのエネルギーになっている。中国は日本と比べると、オーストリアを知ってもらうのに苦労があった。日本ではオーストリアと言えば音楽と芸術の国として広く知られ、一度は行ってみたいと憧れるヨーロッパの国のトップリストに入るだろう。しかし中国ではまだまだ知られていない部分も多い。その面で日本は大変居心地の良い国とおっしゃってくださった。

オーストリア人にとって音楽や芸術は、時に政治や経済よりも大切な事項だ。例えば、どこそこのオーケストラの指揮者が替わったことのほうが、その日の政治のニュースより一大事だったりする。音楽・芸術の分野にとどまらず、オーストリアは教育に力を注いでいる。大学まで授業料は無料だ。優秀な外国人研究者に来てもらうために魅力的な環境づくりも行っている。オーストリアの人口は減少傾向にあったが、多くの優秀な移民を受け入れることで、ひとりあたりのGDPは他のヨーロッパ諸国に比べても抜きん出ている。

オーストリアの人口は約830万人、そのうちおよそ160万人が首都ウィーンに在住している。市内を歩くとカフェが多いことに気づく。勤勉なのにリラックスしていて、お茶するのが大好きな国民性。これは大きな特徴と言えるだろう。Gemütlichという言葉は「居心地が良い」という意味で、オーストリアにはそんな場所が街のいたるところにある、というお話が印象に残った。ちなみに創業130年を誇るウィーンを代表するカフェの



海外初進出店は東京青山で、大使もしばしば足を運ばれる。また伝統のチョコレートケーキ「ザッハトルテ」も日本にファンが多い。

スイーツ以外で日本でよく知られているのが「ウィナーシュニッツェル」。薄く切った仔牛モモ肉をたたいて薄く延ばし揚げ焼きにしたもの。仕上げに揚げ油を捨てて、バターで風味をつけるとおいしい。ワインの種類も豊富なのが自慢だ。ご自身で料理をなさるかうかがってみると、ご本人よりご主人が上手とのこと。実は日本は大使の最後のポストであり、来年帰国して外交官生活からリタイアなさる予定なのでウィーンに帰ったらゆっくりスイーツづくりに時間をとりたいそうだ。

最後に社交界・舞踏会について興味深いお話をうかがった。12月末から2月末までは舞踏会シーズンで、ウィーンだけでも年に200回ほど舞踏会が開かれている。高校生になると希望者は放課後ダンス教室で正式なダンスを学ぶ。20歳になると選ばれた若者たちが社交界デビューを飾って舞踏会でダンスを披露するのが慣わしだ。特に女性は白いドレスをまとい、ゲストの前でワルツなどのフォーマル・ダンスを踊る。大使のご子息もダンス教室に通ったが、最初はなかなか真剣に取り組まなかったそうだ。しかし舞踏会が近づくにつれて本気モードになる。社交界デビューは上手に踊るというのではなく、社会のルールやマナーを習得するという意味も含んでいて、この伝統は今後も受け継がれていくであろう。アルバムに貼られた大使主催の舞踏会の写真に、取材班は思わず見とれてしまった。着飾った人々が集う本場の舞踏会。まさに夢の世界である。

(取材/加藤智恵、高柳由紀子、伊藤志織、倉石哲良 文/加藤智恵)

Azabu-nista

麻布で働く外国人レポート



社会科教師・ミュージシャン International School Teacher・Musician

John Montgomery

教師の仕事、音楽活動すべてをエンジョイしています!

日曜日の午後、元麻布にある西町インターナショナルスクールを訪ねると、音楽室から心地よい洋楽のスタンダード・ナンバーが聴こえてきました。それは同校で社会科担当のジョン・モンゴメリー先生が、テリー・クリスチャン校長をはじめ教師仲間とバンド練習する音が漏れたもの。彼らのバンド『2 (two) Tone Deluxe』はライブ活動も行なう本格派。訪ねた日もイベントを目前に控え、練習にも熱が入っていました。好きな音楽を気心知れたメンバーと歌い、奏するジョンさんの顔は、普段その音楽室を使う子どもたちと同じように輝いていました。

ジョンさんはアメリカ・カリフォルニア州北部のロスガトス生まれ。サンノゼ州立大学で教員免許を取得し、サンフランシスコ大学で教育学を学びました。その後「海外で教えたい」という夢を叶えるべく、就職活動を始めましたが、当初はヨーロッパ行きを考えていたそう。

ところが、三島の英会話学校の講師採用がきっかけで、1979年来日。そこで三島出身のちずこさんと運命的な出会いを果たし、翌年には純和風の結婚式を挙げました。その後、2人のお子さんにも恵まれ、1983年に西町インターナショナルスクールへ。現在まで27年間在職しています。



麻布にはとても縁が深く、もう22年間仙台坂にお住まい。便利で、麻布十番の商店街や六本木ヒルズなど、なんでもあるから…と奥様もとても気に入っているそうで、韓国料理店、魚料理専門店など行きつけのお店もたくさんあります。多趣味なジョンさんは、ギターのほかにも自宅近くの道場で合気道を学び、2段を取得。またクロスカントリーでは子どもたちの指導もしているほどの腕前です。「若い時はサーファーだったんだよ」ジョンさんが得意気な顔で話してくれました。

長く麻布の地で教師として子どもたちの育成に力を注ぐジョンさんの将来の夢は、教育カウンセラーになること。ジョンさんの教えを受けた多くの子どもたちが、麻布から国内外で活躍してくれると嬉しいですね。



1、4 取材時に撮影 2、3 ご本人による写真提供

(取材/高柳由紀子、福本綾子、大澤佳枝、森角香奈子 文/高柳由紀子、森角香奈子)

地域社会
の
ゆくえ

4

地区(地域)防災協議会の活動を知る

その時あなたは、どうしますか?

あなたの避難所を確認しておきましょう

自宅や職場で大地震などの有事に遭遇した場合、集合場所や避難所を家族で確認していますか?災害時の防災組織として、麻布小・南山小・旧飯倉小・本村小・弁小・東町小に地区防災協議会が設置されています。

麻布小地区防災協議会の会長・水橋則男さん、事務局長・水野むねひろさんに活動内容を伺いました。

町会・自治会のメンバー10名程が中心となり、毎月会合を開き、防災備品の点検、災害時用マンホールトイレの準備など想定される困難に対して、地道な活動を続けています。「麻布小避難所運営マニュアル」も2年がかりで作成しました。

避難所は大変なパニックが予想されます

震災直後、48時間は公的支援が届かないものと想定して、毎年9月の始業式に、親子で参加の防災訓練を地域住民と共に行っています。避難所での受け入れ体制については病人、けが人、高齢者、来街者への対応、ペットの問題、食糧、水、衣料、防犯など様々な面での検討を重ねています。

麻布の特徴でもある住民の1割を占める外国人への対応、夜間の4倍以上に膨らむ昼間の人たちへの対応も考えねばなりません。更なる防災のためには、避難地域の見回りなど、若い人たちにも是非、参加協力してほしいそうです。



麻布小で行われた防災訓練の様子。



参加者全員真剣に取り組んでいる。

災害に対応するための重要な3ポイント

第1は自助＝自分の身は自分で守ること。第2は共助＝相互扶助、協力し合うこと。第3は公助＝支援。この3点です。

自助はできても、共助の難しい点は住民同士のつながりの薄さです。災害時には、町内会・自治会に入っていない人や、普段ご近所と接点の少ない人々を把握することは、とても難しいのです。

顔の見える人と人のつながりが、援助活動の重要なポイントになります。日常のお付き合いを大切にしていれば、いざという時の助け合いの効果は大きいということを痛感させられました。

「これからの訓練や勉強会に、参加することから始めてみませんか?」お2人からの要望に、始めの一歩を踏み出してみよう!

茶会記：皐月12日朝、亭主 大橋宗乃 茶室「如庵写」 掛物 精中宗室（玄々斎）「羅々哩」（ららり*）花入 籠（えびら*・トンボ）、水指 はんねら、棗（なつめ）八橋（光琳写・蝶細）、茶碗 黒楽旦入。
 「如庵」の写しのお茶室（大橋茶寮、虎ノ門5丁目）は、京都の数寄屋名工の作、露地があり、静かな時が流れている。大橋宗輝と宗智、宗乃守貧庵主の三代が、この茶室で茶の湯の文化を伝えている。

三井八郎右衛門高棟傳と旧三井邸図



麻布の軌跡

旧三井高棟邸と国宝のお茶室 如庵

たかみね
じよあん



花入 籠 勝虫(トンボ) 大橋茶寮所蔵 (写真 石山恒子)

「如庵」と云えば、織田有楽（うらく）が作った茶室。国宝の如庵が、過って今井町42番地（現六本木2丁目-1）の旧三井邸に所在した。明治時代末期に、この如庵を入手し、保存に尽くされた三井本家、当主三井高棟の旧邸と織田有楽の軌跡をたずねてみた。

今井町の旧三井高棟邸

「三井八郎右衛門高棟傳」※1で、旧三井邸と「如庵」保存にかかわる事実について見てみよう。明治39年(1906)三井高棟は麹町区から麻布区今井町に住まいを移した。お屋敷の敷地が1万3500坪余、建坪も1千数百坪程あり大きな邸宅であった。正門に、門番、請願巡査がいて、広場があり木を植えた馬車回し、車寄せがあり、中央東側に応接間、能舞台、グランドピアノと洋家具のある大書院、小書院、格(ごう)天井に四季の花が画かれた四季の間(ま)、さらに中央南西側にご当主の居間、化粧の間、寝室、書斎、加えて中央北西側に食堂、お次の茶の間、台所、事務所、家扶(かふ)部屋等と、さらに2階にお子さん方のお部屋が11間、遊戯室等があった。北泉閣、躑躅(つづじ)園等の庭園、土蔵3棟と独立したお茶室が如庵、前後軒等3つがあった。大正11年(1922)に英国皇太子をご招待した時に300坪余の饗宴場が建てられ、さらに温室、テニスコートが設けられ、洋館の新館もあった。



旧三井邸の大玄関車寄「三井八郎右衛門高棟傳所収 p639」



昭和12年三井邸 「増補 港区近代沿革図集 港区立港郷土資料館編所収」

茶人 織田有楽

織田信長の13才年下の弟、織田源吾(1547-1621)は、有楽と号した。※3 有楽と号するに、初め無楽としたが太閤秀吉より有楽を賜ったとか、澤彦(たくげん)和尚より狩野古法眼(こほうげん・元信)の「秋の野の百菊」の屏風(びょうぶ)を頂き、天正13年(1585)の頃より有楽と名乗った等の諸説がある。※4

本能寺の変 ※5 の後の有楽は、秀吉から摂津国島下味下(ました・現摂津市)に2千石を知行され、慶長5年(1600)には家康より大和国に3万石を拝領している。※6 有楽は我が子の人質にしても ※7、豊臣と徳川との和睦に努めている。大阪冬の陣が和睦になった時、有楽は十徳(じとく)を着て家康に拝謁した後に「是よりは天下泰平ゆたかな御代に逢て。我らは是にて一生を送らんと。茶を点ずるまねをせしとぞ」※8 と云い、信長と違い和平を望み、茶の湯に生きようとしている。

※1 三井八郎右衛門高棟傳編纂委員会編纂 三井八郎右衛門高棟傳 三井文庫 三井邸 p638-658、如庵 p530-541
 ※2 三井八郎右衛門高棟傳編纂委員会編纂 前掲書p640 三井文庫
 ※3 高柳光寿他2名編集顧問 寛政重修諸家譜 第8 191 続群書類従完成会 柴山準行編 茶人系譜大全 p18 川瀬書店
 ※4 坂田筑母著 茶人織田有楽の生涯 p99 文献出版 鷲尾順敬編 政秀寺古記第2輯第6巻寺誌部 p7 国文東方仏教叢書
 ※5 齋木一馬・染谷光広校訂 兼見脚記 第2 p49 続群書類従完成会
 ※6 高柳光寿他2名編集顧問 前掲書 第8 191 続群書類従完成会
 ※7 渡邊良次郎著 織田有楽と茶道 p164-166 国学院雑誌第62巻第9号
 ※8 国史大系編集会編 徳川実記 台徳院殿御実記巻33 p757 吉川弘文館
 ※9 中村修也著 織田有楽と小庵 p68 小庵宗淳裏千家今日庵歴代第2巻所収淡交社
 ※10 東京国立博物館蔵品詳細 大井戸茶碗 銘有楽 筒井紘一著 小庵宗淳居士の生涯 p35 茶道誌淡交NO. 598 谷 晃 著 小庵茶会記 p90 茶道誌淡交NO. 598 東京大学史料編纂 茶譜 大日本史料第12編之39所収 p232 東京大学出版会

利休から台子点前(てまえ)を相伝されたが、※9 有楽は武野紹鷗を慕い、茶碗を見立て、赤楽碗を自作し、茶入れ袋はトンボ結びが良いと云い、製茶師上林久茂の茶畑のために「味下」の知行を分けた等々、※10 茶の湯を楽しんでいる。有楽の茶の湯は、大徳寺派の墨跡を好み、「茶の湯は客をもてなす道理を本意とする也」※11 と伝えられ、茶室10余の設計図を残している。※12 元和3~4年(1617~1618)頃に建仁寺正傳院に囲(かこい)「如庵」を作り、隠居したと云われる。※13 織田家によって明治維新まで香料が正傳院に支払われていたと云う。※14

如庵は、柿板葺(こけらぶき)単層屋根入母屋造で、二畳半台目、中柱(なかばしら)、突上げ窓を持ち、さらに、後の人の作為と伝えられるが壁の腰張として唇が張ってある茶室である。※15 有楽の茶室の特徴は、にじり口があり、台目(3/4畳)があり、中柱等有ることで、茶室の空間を複雑にし、深い陰影と奥行きを作っていると云う。※16

三井高棟と国宝如庵の保存

明治41年(1908)に三井家が、京都、建仁寺正傳永源院にあった如庵、露地、書院を所有することになり、旧社から今井町の三井邸に移築した。三井高棟は茶事風流に造詣が深く、この茶室を大切に、20年間は如庵で茶会を開かず、古希を過ぎて初めて如庵の披露をおこなった。如庵の建築造作の優秀性、由緒、歴史性から「如庵と露地」が、昭和11年(1936)に国宝に指定されている。同時に、高棟は震災、火災、空襲等を避け、「如庵」を文化財として保存、維持のために大磯の別邸、城山荘に移築を決めている。総指揮を高棟自らとり、工事監督、考証、大工棟梁、庭師を含む総勢25名で移築にあたった。文部省の許可のもと、昭和12年(1937)3月から6月にかけて移築した。如庵の原形を維持するために、如庵と露地等を3つに分け、運送のためにトレーラーを特注、それに各々を載せトラクターに引かせた。許可をもらい、途中の辻堂駅東側踏切では、深夜を待ち、遮断機の柵を一時解体して通過したと云う。さらに、城山荘での如庵移築に際しても、高棟自らが指図等にあたった。



如庵(城山荘へ移築後)「三井八郎右衛門高棟傳所収 p532」

昭和45年(1970)三井家から名古屋鉄道(株)に譲渡され、犬山に移された。※17

有楽、紀伊国屋文左衛門、大阪の藤田家と伝来した茶碗、銘が「有楽」、李朝時代の「大井戸茶碗」がある。この茶碗が昭和12年になって売りだされ、益田鈍翁(三井物産初代社長)と松永耳庵(電力業界)の高値競い合いが伝説になった。※18 今、この名物茶碗は東京国立博物館蔵品にある。

また、元和3年(1617)江戸に有楽が滞在した記録があり ※19、有楽由来の地名が、東京に有楽町と数寄屋橋として今も残っている。※20

羅々哩*は「さらさらしたさま」、籠*(えびら)は矢を入れる武具、十徳*は医師や絵師の服
 ※11 東京大学史料編纂 茶湯古事談 p237 大日本史料第12編之39所収 東京大学出版会
 ※12 中村昌生著 待庵・如庵 p111 日本名建築写真集第10巻所収 新潮社
 ※13 堀口捨巳著 有楽の茶室 p44-45 瓶史新春特別号昭和11年1月
 ※14 堀口捨巳著 前掲書 p64 瓶史新春特別号昭和11年1月
 ※15 中村昌生著 前掲書 p122-123 日本名建築写真集第10巻所収 新潮社
 ※16 堀口捨巳著 前掲書 p62 瓶史新春特別号昭和11年1月
 ※17 三井八郎右衛門高棟傳編纂委員会編纂 前掲書 p541 三井文庫
 ※18 東京大学史料編纂所 大日本史料第12編之39 p289 東京大学出版会 火坂正志著 茶の湯事件簿 p291 淡交社
 ※19 仏書刊行会編纂 本光国師日記 第3 p1206 大日本仏教全書発行会
 ※20 竹内誠著 東京の地名由来辞典 p430、215 東京堂出版

取材協力：三井記念美術館学芸課長 清水 実 三友新聞 河村 洋 吉澤 大輔 大橋茶寮 守貧庵 大橋宗乃

Living in AZABU



夏だ。
以前ホノルル郊外で、赤く熟したライチが実っていた
お家を思い出す。きっと真赤なミニ・マンゴーでも（そんなのって
ある??）なっているに違いないわーと思った～。
ライチがお庭になるなんて!!
いつまでも心に残ってはなれない。

ことは“虹”を少しお勉強してみようか。
スクールの後
いつも Double Rainbow 見ていた。
あ～ HAWAII だ。

おひさまに背をむけてスプレーすると
Private Rainbow が出来るんだそうだ。
すてきね。やってみよう。



川瀬巴水さんは、パステルカラーのレインボーを
描いてらっしゃる。
さすがだ。

ーで、夏の気分が盛り上がって
Honolulu I am coming back again.
ーとウクレレをひいて歌っている。

麻布の空でも何度も虹を見た。
超あこがれのあの方は、
この虹を見てらっしゃるかいら？ーと乙女心。

お元気な夏をお過ごし下さいね。

ALOHA

(イラストレーション・文/湊 早苗)

麻布地区総合支所は、地域のさまざまな課題について、区民の皆さんの立場で、ともに考え、ともに解決に取り組んでまいります

麻布地区地域事業について

前号に引き続き今回は、麻布地区総合支所が独自に実施する12の地域事業のうち、「飯倉片町地下横断歩道小学生児童絵画展示事業」「コミュニティ形成事業」「福祉会館等施設情報紙の発行」の3事業をご紹介します。

※これまでの号では、(1 災害時セーフティネット構築事業/2 安全・安心に特化した公園づくり/3 子ども芸術ふれあい事業/4 麻布未来写真館/5 国際協働事業/6 麻布フェスタ)をご紹介します。

7 飯倉片町地下横断歩道小学生児童絵画展示事業

【事業化に至った課題認識】

昨今、小学生の通学途中を狙った犯罪や事件が発生し、通学路の安全確保が課題となっています。

【事業の内容】

小学校の通学路となっている地下横断歩道を利用して小学生の絵画を展示します。地域の小学生が制作した絵画をととして地域のコミュニティの場を提供するとともに、公共空間の見守り機能や多様な人々の連帯感を高めていきます。

計画目標 (23年度末)	現状 (20年度)	事業計画				計
		21年度	22年度	23年度		
地下横断歩道 1か所	地下横断歩道 1か所	絵画の 付替え	絵画の 付替え	絵画の 付替え	絵画の 付替え	



8 コミュニティ形成事業

【事業化に至った課題認識】

自前の事務所や活動拠点を持たない町会等の地域団体は、活動が制約されがちであるため、場の提供によりその活動を支援していく必要があります。

【事業の内容】

町会をはじめとする地域団体や区民等のコミュニティ活動を支援するため、場の提供等を行います。

計画目標 (23年度末)	現状 (20年度)	事業計画				計
		21年度	22年度	23年度		
支援の 充実・実施	充実・ 実施	充実・ 実施	充実・ 実施	充実・ 実施	充実・ 実施	



活動スペース(地域交流コーナー)の様子

9 福祉会館等施設情報紙の発行

【事業化に至った課題認識】

区有施設の利用促進を図るため、広報紙や地域情報紙よりもきめ細かな情報を発信していく必要があります。

【事業の内容】

麻布地区内にある福祉会館・児童館・保育園等の情報を地域の方の手元に直接届くよう、施設の情報紙を定期的に発行します。



計画目標 (23年度末)	現状 (20年度)	事業計画				計
		21年度	22年度	23年度		
施設情報紙の発行	年6回 発行	年6回 発行 (28,000部)	年6回 発行 (28,000部)	年6回 発行 (28,000部)	年6回 発行 (28,000部)	

(次号に続く)

「麻布フェスタ」を開催します!

今年度の麻布フェスタは『アート』と『デザイン』をテーマに、1年を通してさまざまなワークショップを開催します。

第1弾は、8月に「笑ってシンポ～アート寄せ・寄席(仮題)」を開催します。「アートと言われても、敷居が高い…」と思っている方にオススメです!真打ちでもある遊興亭福し満さんこと世田谷美術館学芸員の高橋直裕氏が、麻布にちなんだ落語で『アート』を身近なものにしてくれます。そのほかスペシャルゲストとのアートトークがあります。

夏から開催されるワークショップが、さらに楽しくなること間違いなしです。ぜひ、ご参加ください。

8月以降もこんな企画を予定しています

10月から「編んだ、つないだ。あったかい」
～一人ひとりが編んだ小さなニットをつないで、大きなひざ掛けを作ります!

3月「(仮称)ZABUZABU 麻布フェスタ」

～1年を通して行ったワークショップの集大成です。

※他にもさまざまなイベントを企画中です。
※内容は変更になることがあります。
詳しくは、「広報みなと」、「ザ・AZABU」、区のホームページ等でお知らせします。また、「麻布フェスタ」のホームページも近日開設予定です。お見逃しなく!

お問い合わせ/
麻布地区総合支所管理課調整係
電話/03-5114-8811



読者の皆さん、ご意見ください。

本紙記事の感想や取り上げてほしい情報など、何なりとお寄せください。
より魅力的な紙面にするための参考にさせていただきます。



ご意見をお寄せいただいた方に麻布オリジナルグッズ「旧町名バンダナ」プレゼント!
「ザ・AZABU」では読者の皆様からのご意見・ご感想を募集しています。

ご住所・氏名・年齢・職業をご記入の上、下記までご応募ください。
●電話で.....03-5114-8812(月～金/午前8:30～午後5:00) ●ファックスで.....03-3583-3782
●郵送で.....〒106-8515 港区六本木5-16-45 港区麻布地区総合支所「ザ・AZABU」編集室宛



港区麻布地区 総合支所だより

総合支所からの お知らせ

「第30回共に生きるみんなの歌と踊りのつどい」を開催します

祝30回!障害者による歌やダンス、詩の朗読などを通じて、会場の皆さんが感動や元気をもらえるハートフルなイベントです。地域の皆さんのお越しをお待ちしています。

日時/7月10日(土)午後1:30~4:00

会場/麻布区民センター 地下ホール

内容/区内の福祉施設団体やボランティアによる歌・ダンス・詩などの発表

入場料/無料

お問い合わせ/

港区社会福祉協議会

みなとボランティアセンター

電話/03-3431-2081

まちづくりビジョンが登録されました

六本木三丁目東地区まちづくり協議会のまちづくりビジョンが4月7日に区に登録されました。

詳しくは、各総合支所の窓口にある「協議会登録簿・ビジョン登録簿」をご覧ください。

お問い合わせ/麻布地区総合支所

協働推進課まちづくり推進担当

電話/03-5114-8815

都税事務所からの お知らせ

都税について 税務職員を装った不審な電話 「還付金詐欺」にご注意ください!

主税局職員や税務職員を装って、税金などの還付金があると騙し、ATMから多額の金額を振り込ませようとする「還付金詐欺」が都内でも多発しています。

主税局では、税金を還付するためにATMの操作をお願いすることは絶対にありません。電話でATMの操作を求められたら、それは「還付金詐欺」です。

不審に感じた場合は、相手の氏名、所属する部署名をご確認のうえ、指定された電話番号にはかけずに、最寄りの都税事務所または主税局総務部総務課相談広報係までご連絡ください。また、万が一被害にあわれた場合は、すぐに警察にご連絡ください。

お問い合わせ/

港都税事務所相談広報担当

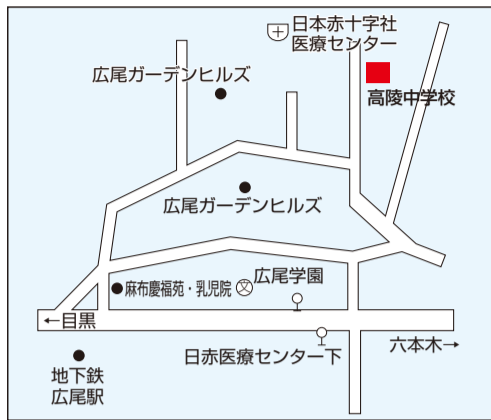
電話/03-5549-3800(代)

主税局総務部総務課相談広報係

電話/03-5388-2924

高陵中学校屋内プールを 開放しています

所在地/港区西麻布4-14-8



対象/

区内在住・在勤者で個人登録証をお持ちの人(小・中学生は不要)

料金/

2時間:大人300円 小・中学生100円

※区内在住の65歳以上の人(個人登録証持参)、障害のある人(個人登録証持参)および未就学児童は無料

利用時間/

●木・金曜

午後6:30~8:30

●土 曜

午前10:00~正午、午後1:00~3:00

午後3:30~5:30、午後6:00~8:00

●日曜および利用日が祝祭日と重なる日

午前9:30~11:30、正午~午後2:00、

午後2:30~4:30

利用にあたって/

●学校プールでは、水泳帽子を着用してください。

●3歳未満と、おむつのとれていない幼児は、プールに入場できません。

●詳しくは、区のホームページをご覧ください。

お問い合わせ/

教育委員会事務局生涯学習推進課スポーツ

振興係 電話/03-3578-2750~3

高陵中学校屋内プール受付

(開放時間内に通話できます)

電話/03-5464-7749

区のホームページ/

http://www.city.minato.tokyo.jp/

麻布消防署からの お知らせ

ライター火遊びに注意しましょう

平成11年から平成20年までの10年間に、東京消防庁管内で発生した12歳以下の子どもによる火遊びの発火源として、「ライター」の511件(71.9%)が最も多く、ライターによる火遊びの火災で7人が亡くなり、208人がケガをしています。

火災から大切なものを守るために、ご家庭や地域で子どもたちに火の大切さや、火・煙のこわさなど、正しい知識や取り扱い方について教える機会をつくりましょう。

火遊び防止対策

○マッチやライターなどは子どもの手の届かない場所に保管しましょう。

○アイロン、ヘアドライヤー等はいたずらされない場所に保管しましょう。

○テレビ、新聞等で火災のニュースが報道されるときをとらえ、火のこわさを教えるとともに火遊びをしないよう教えましょう。

○花火などをするときは、大人が付き添い、必ず消火のための水を用意しましょう。

お問い合わせ/麻布消防署防火管理係

電話/03-3470-0119



麻布警察署からの お知らせ

被害にあったら

犯罪や交通事故の被害にあえば、誰でもどうしたらよいかかわからなくなります。

警視庁では、被害者やご家族の方の手助けになるよう

●捜査や裁判はどのように進み、犯人はどのような手続きで処罰されるのか

●捜査上、被害者やご家族の方に、どのようなお願いをすることになるのか

●利用できる制度や、関係機関・団体にはどのようなものがあるか

などについて情報を提供したり、相談に応じています。

もう一度 あなたの笑顔を見たいから
~相談してみませんか~

お問い合わせ/麻布警察署

電話/03-3479-0110



麻布の区民参画……連載② 語り合い、ともに麻布のまちを住みよくしていきませんか

区民の皆さんとの「参画」と「協働」の取組みについて前号に引き続きご紹介いたします。

■麻布を語る会「地域情報の発信」分科会

【活動内容】本紙「ザ・AZABU」の編集・企画

今は何をやっているの?

2ヶ月後のvol.15発行に向け、取材等の準備をしています。

■麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会

【活動内容】将来に残し、伝えていくべき今の麻布の写真撮影や古写真の収集

今は何をやっているの?

新メンバーを加え撮影・収集を始めています。

※平成21年度の成果は「活動報告」として支所で配布しています。

■麻布を語る会「基本計画協働推進」分科会

【活動内容】地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現を目指す「麻布地区版計画」の内容についての検証等

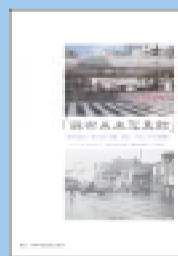
今は何をやっているの?

平成22年度は、新メンバーを加え、テーマ別のワークショップ等を始めました。

※各分科会とも随時メンバーを募集しています。内容については、お気軽に下記までお尋ねください。

お問い合わせ/麻布地区総合支所協働推進課地区政策係

電話/03-5114-8812



活動報告

編集後記

編集会議で感じるのは、美しい日本語を目指し熱い意見が続く、「言葉が乱れている」と云われる昨今、この会議は健全である、ということ。いかに読者、つまり区民にわかり易く伝えるか編集委員の努力が伝わって来る。読者の皆さん、どうか理解していただきたいと思ひます。「ザ・AZABU」に声援を送ってください。(倉石哲良)

ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書サービスセンター、麻布福祉会館、西麻布福祉会館、飯倉福祉会館、本村福祉会館、大平台みなと荘、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief 尾崎恭彦

Sub Chief 石山恒子

Staff 浅川一枝

伊藤志織

伊東みゆき

大澤佳枝

大村公美子

加藤智恵

石山 茜

Junior Staff

倉石哲良

満木葉子

鈴木敏江

湊 早苗

高柳由紀子

森 明

田中亜紀

森角香奈子

西野さつき

山下良蔵



港区は、みどりの保全とごみの減量に努めています。

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。年中無休/午前7:00~午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話/03-5472-3710 FAX/03-5777-8752

Eメール/info@minato.call-center.jp

"Minato Call" information service
Minato call is a new city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp